

第3章 3.9  
Proficiency levels and  
achievement grades  
(熟達度レベルと到達度の成績)

周麗君

# 尺度について

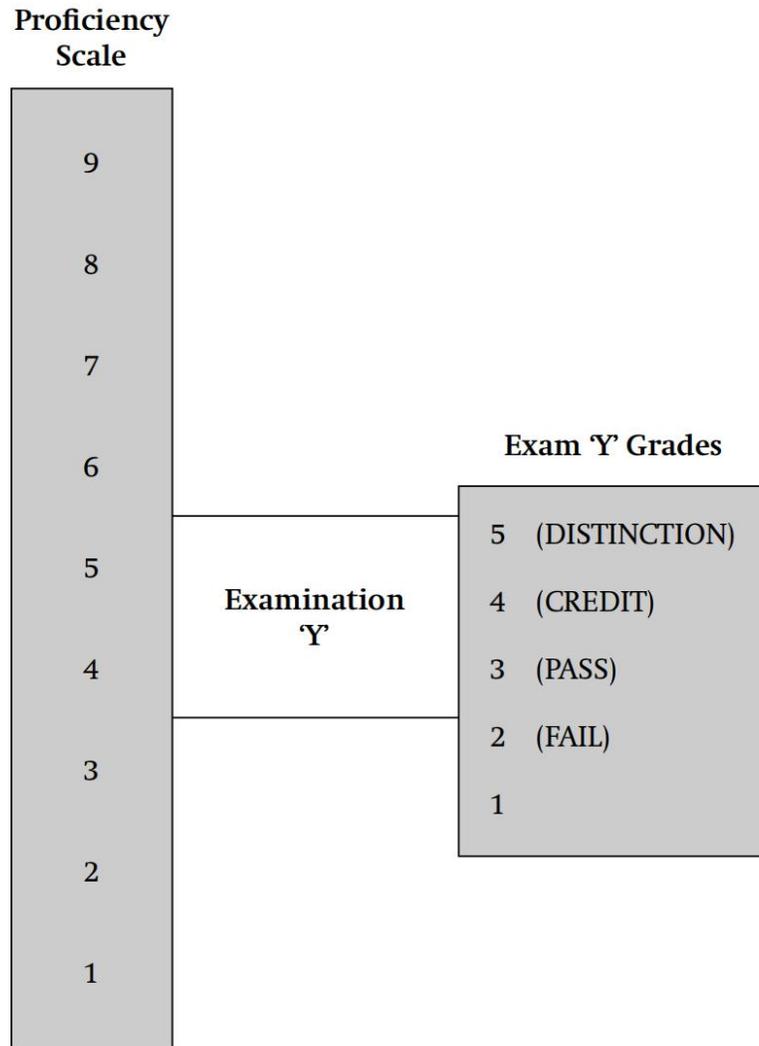


Figure 7

共通参照レベルのような**熟達度のレベルの定義**と特定のレベルにおける**目標達成度の評価**の間に**尺度に関する区別**がある。

熟達度の尺度は熟達度の上昇度を定義する。

⇒①熟達度の尺度は学習者の熟達度の全概念の範囲を含まれている。

②関連の部門や (sector or institution) 制度の熟達度の領域をカバーしている。



例：レベルB2として評価されることは、2か月前に、B1として評価された学習者にとって**かなりの達成度**を示したが、二年前にB2として評価された学習者にとって、**平凡な能力**です。

# 目標をどこかのレベルに設定するとよう

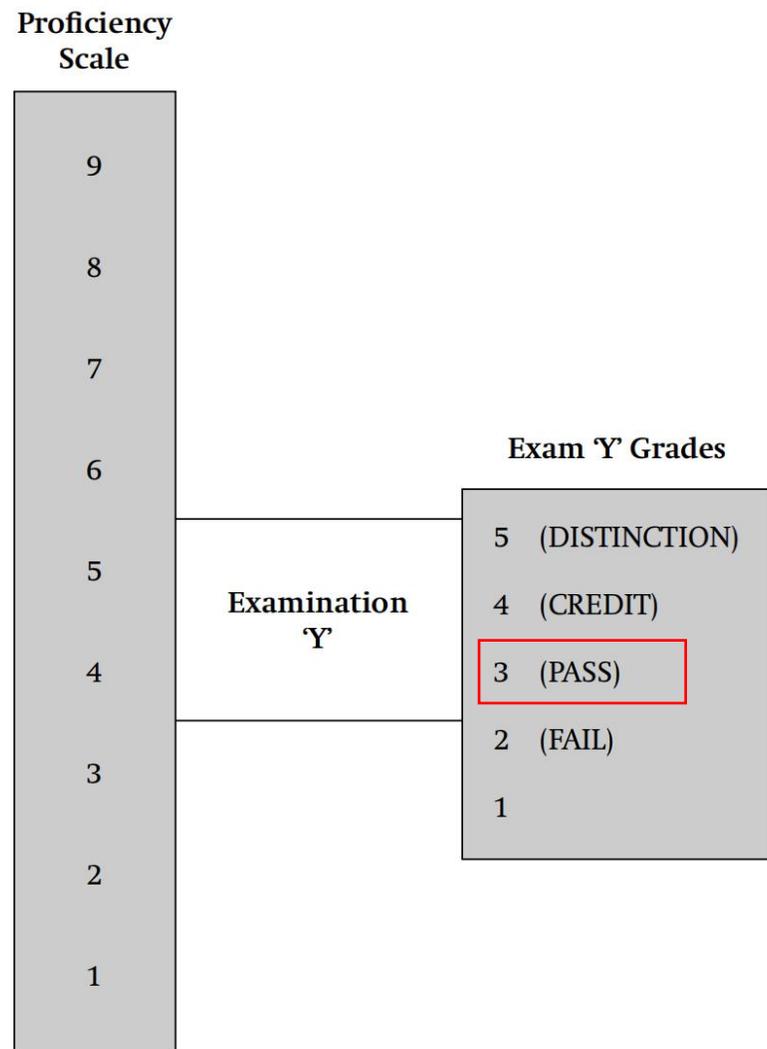


Figure 7

試験「Y」はレベル4, 5の熟達度をカバーする。ほかの試験の場合X、Z、違うレベルになる。  
そして、熟達度尺度は試験の関係性をはっきりさせる。

例:

試験「Y」(図7)、このような成績の尺度は

- ①主観評価テスト(特に、作文や会話)に用いられる。
- ②成績を知らせる。

試験「Y」は一連の試験「X」「Y」「Z」の一部かもしれない。どの試験でも類似なスタイルで採点する。

しかし、「X」の評価4 ≠ 「Y」の評価4。

# 目標をどこかのレベルに設定するとよう

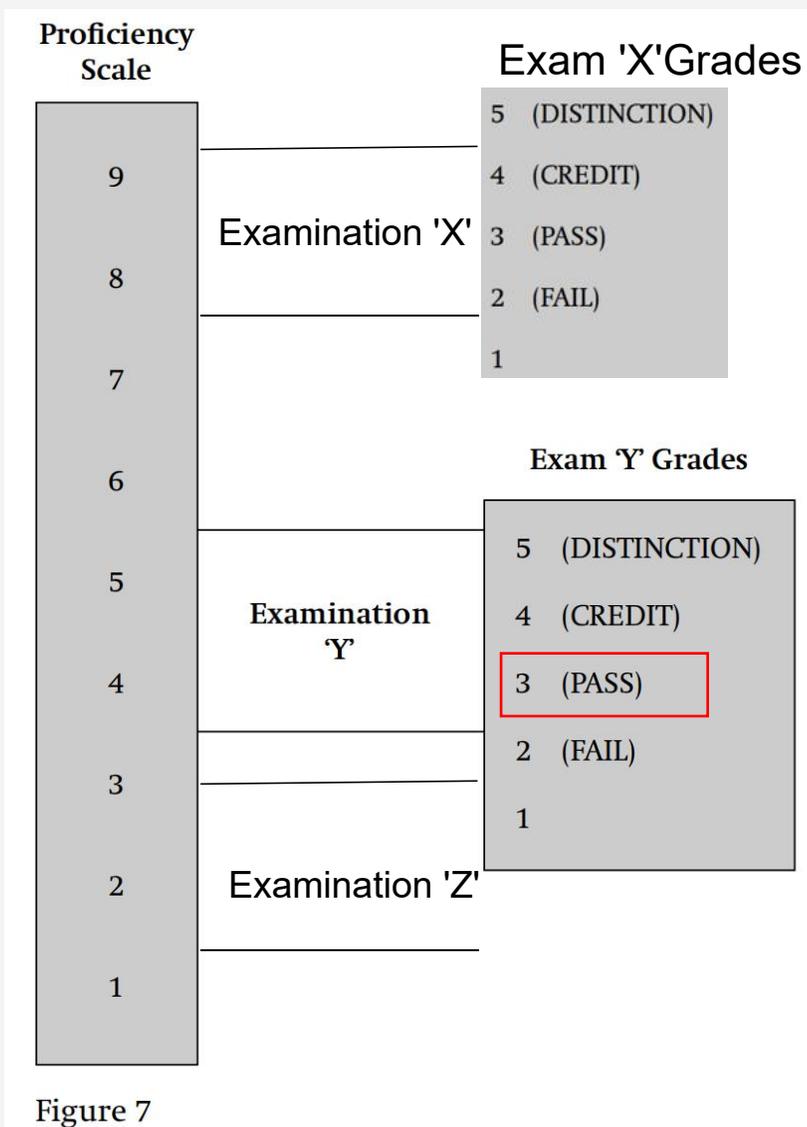


Figure 7

試験「Y」はレベル4, 5の熟達度をカバーする。ほかの試験の場合X、Z、違うレベルになる。そして、熟達度尺度は試験の関係性をはっきりさせる。

試験「Y」、このような成績の尺度は  
①主観評価テスト（特に、作文や会話）に用いられる。  
②成績を知らせる。

試験「Y」は一連の試験「X」「Y」「Z」の一部かもしれない。どの試験でも類似なスタイルで採点する。

しかし、「X」の評価4 ≠ 「Y」の評価4。



## 試験間の成績の関係はどう確立か？

もし、試験「X」「Y」「Z」は共通の熟達度の尺度に置かれると、ある試験の成績と一連の他試験の成績の関係を確立することが可能である。

これは専門家の意見の蓄積、項目の分析、公開された試験問題・回答例と、試験の受験者の成績とを比較した上で達成できる。

上述の方法⇒試験の成績と熟達度のレベルの関係の確立

- ・ 基準があり、その基準を解釈できる訓練された評価者の集団がいること
- ・ 共通の基準を明示的、明確的なものにし、基準を客観的に扱う実例を与え、尺度化する。



- 
- 
- ・ 様々な成績の意味は当該の環境にあって教師に内在化されていて、定義されていない。
  - ・ 教師の成績評価 (teacher assessment grades) と熟達度レベルとの関係と、試験成績 (examination grades) と熟達度レベルとの関係は基本的に同じ。しかし、多面的な基準が存在⇒さらに複雑

(理由: 教師による成績の解釈の差、教育制度の地域の学校の差、学年の差。)

第4 学年の終わりの「4」は、明らかに同じ中等学校での第3 学年の終わりの「4」とは意味が異なる。また、第4 学年の終わりの「4」は二つの異なる種類の学校では同じものではないのである。)

表1 共通参照レベル：全体的な尺度

熟達した言語使用者	C2	聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解する。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠を挙げて、自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解し、言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細なテキストを構成する字句や接続表現、結束表現の用法を適切に用いることができる。
自立	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらいに流暢に、また自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な話題について、明確で詳細なテキストを構成する字句や接続表現、結束表現の用法を適切に用いることができる。

けれども、基準の種類と熟達度のレベルの間に、おおよその関係を設定することは可能である。

技術的累積が必要⇒同じ目標に対する達成度の基準定義を示す。

教師は平均的な達成度を表1、2のような既存の熟達度の尺度（proficiency scale）に置き換える。

代表的な運用例を集め、連続した尺度に当てて測定する。また、教師は普段生徒に対して使っている成績で標準化された言語運用例のビデオを評価してみる。

表2 共通参照レベル：自己評価表

		A1	A2
理解すること	聞くこと	はっきりとゆっくりと話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	（ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの）直接自分に関連した領域で最も頻りに使われる語彙や表現を理解することができる。短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。
	読むこと	例えば、掲示やポスター、カタログの中をよく知っている名前、単語、単語を聞き取れる。	ごく短い簡単なテキストなら理解できる。

**Thank you.**

